

《JOC 選手強化 NF 事業》令和 6 年度障害馬術強化訓練 実施要項

1. 目的 2026 年アジア大会開催を見据え、ナショナルチームおよびプロGRESSチームメンバーに認定されている国内選手の技術・競技力向上を目的に本事業を行なう。

2. 主催／運営 公益社団法人 日本馬術連盟 / 障害馬術本部

3. 講師 杉谷 泰造 選手 JOC 強化指定選手／オリンピック7大会出場
福島 大輔 選手 東京オリンピック障害馬術個人6位
中野 善弘 監督 JOC 強化スタッフ／障害馬術本部長
※最終ページにプロフィール掲載

4. 期間 令和7年2月3日(月)～5日(水) 計3日間
3日 6:00～9:00 入厩(正門)*大型可
9:00～11:00 入厩(馬運車門)*大型不可
13:00～ 打合せ会
3日～5日 講習会・訓練

5. 会場 JRA 馬事公苑／東京都世田谷区上用賀 2-1-1 | TEL : 03-3429-5101 (代)

6. 参加条件

(1) 令和6年度障害馬術ナショナルチームメンバーあるいはプロGRESSチームメンバーに認定されている選手と、チーム認定された馬あるいは中障害C以上の飛越能力のある日本馬術連盟登録馬との人馬の組み合わせ。

7. 申込方法

(1) 申込締切日 令和7年1月14日(火)
(2) 参加料 無料(2頭まで)
(3) 申込方法 申込締切日までにオンラインにて申請すること

※ なお、今回は JRA 馬事公苑で開催されるため、オンラインエントリーとは別に、「**JRA 馬事公苑入厩届**」および「**宿泊施設利用申込書**」に必要事項を記載のうえ、申込締切日までにメールにてご提出ください。メール送付先：matsui@equitation-japan.com

8. 防疫 日本馬術連盟 競技会関連規程集令和6年度版「日本馬術連盟 馬インフルエンザ予防接種実施要領」または「JRA 馬事公苑入厩要件」のどちらかを満たした接種歴であること。

9. 宿泊・食事

(1) 選手の宿舎は、主催者が手配し、室料のみ負担する。選手が各自で手配する宿舎の費用は自己負担とする。各自で宿舎を手配し、馬事公苑休憩室に宿泊しない場合は、申込時に主催者に連絡すること。選手関係者の宿泊については各自で手配すること。

- ※ 宿舎名：日本中央競馬会馬事公苑 オペレーションセンター3階 休憩室（予定）
2/3 チェックイン・2/5 チェックアウト<2泊3日>
 - ※ 部屋の鍵を紛失した場合は、紛失した者が鍵の再発行に関わる金額を負担すること。
- (2) 合宿期間中（2/3-5）の選手の昼食は、主催者が準備する。
 - (3) 申込締切後の宿舎変更等は受け付けられない場合がある。
 - (4) 会場付近での幕舎宿営、自炊および火気使用は認めない。

10. その他

- (1) 参加選手は必ず何らかの傷害保険に加入していること。強化訓練中の事故に対して、応急処置は行なうがその責は負わない。
- (2) 参加馬の乗馬登録証および健康手帳を携行し、各種予防接種を実施していること。
- (3) 清掃は各自で行ない、ゴミはすべて持ち帰ること。
- (4) 参加者は、障害物の移動、設置、片付けや会場の清掃に協力すること。
- (5) 障害馬術オリンピックチャレンジプロジェクト参加馬と併せて輸送を行う場合、1/31（金）の入厩を認める。
- (6) 強化訓練は一般見学も可能です。お気軽にお越しください。
- (7) 各種お問合せは、日本馬術連盟事務局（TEL：03-3297-5611）まで。

《講師プロフィール》

杉谷 泰造

オリンピックでは、1996年アトランタ、2000年シドニー、2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロ、2024年パリの7大会に出場し、日本人最多出場記録を樹立。2014年仁川アジア大会では個人・団体銅メダル、2018年ジャカルタアジア大会では団体銀メダルを獲得した。世界選手権の代表選手には7回選出されている他、2019年にタイで行われたアジア選手権大会では金メダルを獲得しており、日本の馬術界を牽引する選手のひとりである。

福島 大輔

高校2年生の時に全日本障害飛越選手権を最年少記録(17歳)で優勝した後、2016年と2017年には、2大会連続で全日本障害飛越選手権を制した。また、高校1年から3年まで国民体育大会で3連覇を果たす。オリンピックは、2016年リオデジャネイロと2020年東京に選出され、東京大会では、個人6位に入賞した。アジア大会には2度出場しており、2018年のジャカルタアジア大会では、団体銀メダルに貢献する等、国内外での実績が多数ある。

中野 善弘

1984年ロサンゼルス、1988年ソウル、1996年アトランタの3大会においてオリンピックに出場した他、アジア大会では、1986年ソウルと1993年広島において、団体で金メダルを獲得した。全日本障害飛越選手権優勝（1993年）をはじめ、全日本大会各クラスで優勝・入賞多数。現在は、障害馬術本部長を務めており、2022年ヘアニング世界選手権、2022年（2023年）杭州アジア大会、2024年パリオリンピックで監督を務めた。

この強化訓練は、競技力向上事業助成金を受けて実施されています

JAPAN SPORT
COUNCIL

日本スポーツ振興センター